

## 2021年度 慈光こども園 自己評価（職員）

認定こども園は、自己評価及びその公表が義務付けられています。これはよりよい園となっていくための手段であり、特定の職員の業績評価を行うためのものではありません。この評価の内容を基に、慈光こども園の日々の実践を振り返り、これからの保育・教育の計画とその実践につなげていくためのものです。

### 評価項目

各評価の欄いずれかに次のA、B、C、Dの評価をお書きください。園内で具体的に気づいた点、反省等も沢山お書きください。  
A. できている B. できている事もある C. 改善努力が必要 D. その他

項目	内 容	評価	意見、気づき、反省、目指す園の様子
保育目標・方針	保護者に保育・教育の目標を分かりやすく伝えている	C	園だよりでのお知らせのみで、不十分
	子ども達の心身の健康を育てている	A	体と心をたくましく育む
	子ども達の自発と自立を丁寧に支え、温かく見守っている	B	丁寧に温かく心を込めて保育する
	保育の中で子ども達の想像力と表現力を培っている	B	主体的創造意欲をもって表現活動に取り組む
	生活の中で子ども達の思いやりの心を育てている	C	職員が子ども気持ちを受容し、共感して行く
	小さな成功・失敗体験によって子ども達の粘り強さを培っている	C	根気強く、一人一人の活動をよく観て、適切な声かけをする
	子ども一人一人の人権を大切にしている	C	人権に十分配慮した言葉や保育を行っている
	子ども一人一人の個性や可能性を大切にしている	C	子どもの個性や可能性を信じ、やる気としなやかさを育てていく
	子ども一人一人の気持ちを大切に、受容と共感を行っている	C	一斉活動の時も、しっかり個別対応を行い、子ども達の気持ちを肯定する
活動内容	子ども達は園での生活を楽しんでいる	C	全クラスで、全園児が園に来るのを毎日楽しみにし、満たされる保育をする
	子ども達の生きる力(＝認知能力・非認知能力)の基礎が育っている	B	認知能力を育みつつ非認知能力も育み、常に感動と学びを提供する
	家庭的な温かい雰囲気保育が行われている	C	プロの保育士として家庭以上に温かく、子どもの主体性を育む保育を行う
	子ども達の活動に五感を使った体験をとりいれている	C	五感を意識した活動と、そのための環境を整えて行く
	外遊びやリズム遊び等で、楽しく体力をつける工夫をしている	B	外遊びの環境を整え、楽器遊びも積極的に取り組んでいく
	子どもが自分で考え、行動する生活や遊び体験を工夫している	B	自由遊び、屋外遊びではできているが、室内の環境設定が不十分
	挨拶と返事がしっかりとできるように、挨拶の大切さを伝えている	B	高学年ほどよくできる。挨拶と返事の大切さの周知を続ける
心の育ち	友だちと仲良くする気持ちを育てようとしている	A	友だちと対立する場合も、お互いの気持ちを考え、
	子ども達が生き物の命を大切にすることを育てている	B	生き物に興味を持ち、よく観察し、生命の不思議と、尊さを知る
	子ども達が周りの人や物に感謝する気持ちを育てている	B	ありがとうの気持ちを折に触れて伝えて行く
	子ども達がルールを覚えて守ろうとする気持ちを育てている	B	より柔らかく分かりやすい表現で、子ども達にルールの大切さを伝える
養護	笑顔、子どもの目線、暖かく優しい態度で子どもに接している	B	より一層笑顔に磨きをかけて、子ども達への言葉かけ等、研鑽努力する
	肯定的な言葉で、子どもの意欲や自信を育てよう接している	C	言葉かけの方法を工夫し、子ども達とより善い関係を築いていく
	一人一人の発育・健康状態、家庭生活環境に配慮して関わっている	B	一人一人の家庭状況の把握はできている、発育に合わせて保育を工夫
	子どもの表情や姿をよく観察し、適時心を配った対応を行っている	B	子どもの表情や姿を見て、心を配り、適切な言葉をかける
モラル	職務上知り得た個人情報、法に則り適正に取り扱い、秘密を保持している	B	守秘義務違反は犯罪であると共通理解している
	職務にふさわしい服装・言葉・態度・行動・考え、プロとしての自覚をもっている	A	制服を支給し、プロとしての自覚と誇りを持っている
	園児保護者への対応は公平であるよう配慮している	C	保護者対応に偏りが見られ、気持ちの良い対応を心がける
	職務中不適切な、会話、行動は行っていない	C	一部、園児の家庭の話題が聞かれる
安全	施設設備、遊具等の安全点検を行い、事故防止策を行っている	A	毎月、自主的に安全点検を行っている
	子ども達が安心して生活できるように、整理整頓清潔、衛生管理を心がける	B	毎年着実に園内がきれいになってきている
	地震、火災、不審者に対して、実際に園児の避難誘導ができる	A	毎月、避難くれんを行い、職員・園児の危機管理意識を高める
	ヒヤリハット・事故記録を活用し、危険回避の対策を行っている	A	危険箇所をマップ化し、自己記録は必ず改善措置を行う
	誤嚥、窒息事故、交通事故に十分配慮を行っている	A	考えうる限りの食事、午睡、バス運行、登降園の安全対策をとる。
	感染症などの発生時に、各自感染防止策等適切な対応がとれる	A	感染症の対応は必要十分以上に行い、保護者にも協力を呼びかける
	自己の体調を管理し、感染対策や健康の維持及び回復につとめている	A	職員健康診断を実施し、適切な指導を受け、自己管理を行う
食育	子どもが楽しく食事をする環境づくりに努めている	B	コロナの為に熱食、姿勢を正し、箸を正しく使えるように適時言葉かけを行う
	子どもの成長や食物アレルギー等、健康状態に応じて、十分配慮対策している	A	専任栄養士による献立。手作りおやつをモットーとしている
	子どもは食事を楽しんでいる	A	その日のメニューを朝の会に伝えて、関心を持てるようにしている
	子ども達に、食事ができる事への感謝の気持ちが育っている	C	職員も食事ができる喜びを共感しながら、子どもにも伝えていく
保護者	保護者が子育ての心配や悩みを、安心して相談できる存在となれるよう努めている	B	園での困りごとを直接職員に伝えられない事もある。苦情解決窓口活用
	保護者の生活環境に配慮し、意見や相談を聞きやすい工夫をしている	C	園児の家庭生活に改善を求め前に、園でできるケアを実践する。
	子どもの様子や活動の説明等を通じ保護者との相互理解に努めている	B	園生活の十分な伝達。子どもの理解、保護者の問題意識を共有する
	意見、提案、苦情について、必ず上司に報告し、適切に対応している	B	現場だけで解決しないよう、特に苦情は未報告が決して無いようにしている
研修研鑽	研修の成果を保育に活かし、子どもの育ちに反映するよう実践、改善を行っている	B	研修内容をPDCAサイクルで実践した結果を、職員に報告し、改善して行く
	研修には、事前に内容を把握し、自己課題と問題意識をもって参加している	B	研修内容から、最も必要としている職員を派遣して、実践報告を求める
	研修の貴重な成果は、所定の書式にまとめ、全職員で共有している	A	新潟市の書式を転用し、PDCAの実践と報告を行っている。
	保育教育内容についてPDCAで改善の実行、質の向上に努めている	C	保育活動の課題、問題意識をしっかりと持ち、反省と改善に努める。
	自らの保育教育実践について、上司、同僚に意見を聴くように努めている	B	確かな自己研鑽と学習を行い、問題解決の最善方法を考える下地から築く
	保育への疑問・違和感を大切に、法令や情報を調べ、上司に相談している	C	大人の都合だけのルールを作らず、子どもの気持ちを大切にすること。
	専門書を読み、様々な知識を習得し、技能レベルの向上に努めている	C	専門書だけでなく、youTUBEなども活用し、習得できる技術を実践して行く
活動の目標・ねらいを検討し、園内で共通理解できている	C	活動の目標の決定、伝達に園全体が関わり、実践、反省、周知を行う	

### その他について

園児数が毎年減っており、職員数が過剰な中、正規職員の事務負担は減らない。しかし、利用者(保護者・園児)を第一に考え、利用者にとって何が必要で、何をすれば喜ばれるかを考える。その上で職員の都合、問題も十分に汲んで、保育の質を下げずに改善できることからどんどん改善改革していく。